

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600367		
法人名	社会福祉法人ふるさと		
事業所名	グループホームふるさと 1階ユニット		
所在地	帯広市西20条南3丁目6番22		
自己評価作成日	2017/9/30	評価結果市町村受理日	平成29年11月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0194600367-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成29年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、閑静な住宅街のなかに立地し、近くには公園や小学校、高等学校などのほか、商業施設も近郊にあり生活環境に恵まれた地域にあると言える。

入居者様の暮らしは、各々の方がここを文字通り「ふるさと」と感じていただけるよう、これまで生活されていた場の出来るだけ延長線上にありたいと、思っています。

入居者様、それぞれの“歴史”を大切にし、ご自身の生活サイクル、趣味嗜好、あるいはこだわりなどにも出来るだけ応えながら、スタッフとともに生活を営んでいきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の中で過ごして戴く環境を目指して、住宅街の一角に平成27年3月開設の総合福祉事業を運営する社会福祉法人の木造2階建てのうち1、2階部分の2ユニット(定員:18名)のグループホームです。地元中学校生徒の体験学習や実習生の受け入れ、町内会に向けて認知症への理解に向けた研修会、健康体操教室の開催、地域の人々の協力を得たSOSネット模擬訓練など事業所の持つ機能の地域への還元や地域の人々との交流、認知症への理解や啓発に取り組んでいる。

また、一人ひとりの生活歴や力を活かしながら園芸部が中心となって「ふるさと菜園」で野菜作りや収穫を楽しんだり、町内会の夏祭りに参加して子供神輿への協力や焼き肉、流しソーメン大会を開催して、役割、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入り口に「理念」を掲げ、それに基づいたケアを全員が統一して実践出来るように図っている。入居者さんにとっての「第二のふるさと」となるべく努めている。名刺サイズに印刷してスタッフがそれぞれに所持している。	事業所独自の理念を携帯すると共に見易い場所に掲示して、全体会議や内部研修会の開催、日常業務を通じて話し合い、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ参加して、地域の方々とのつながりを持っている。ホームに隣接している住宅とは、常日頃の挨拶のほか、庭で咲いたお花をいただいたり、畑の収穫物をお裾分けするなど親しく交流している。	地元中学校生徒の体験学習や実習生の受け入れ、町内会に向けて認知症への理解に向けた研修会の開催、SOSネット模擬訓練など事業所の持つ機能の地域への還元や地域の人々との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症を理解していただくため、徘徊模擬訓練を地域包括支援センターと共催で取り組んだり、「認知症とは」と言った学習会の講師及び見学依頼を積極的に受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員会では、法人決算報告の他サービスの内容や行事の報告などを実施。文章による報告以外に、動画や写真等ビジュアルを使用した報告を行い、入居者の表情も視覚的にみただけ好評を得ている。	運営推進会議を年6回を目安に開催して、地域とのかかわりや利用状況、感染症対策等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告（出席者、会議議事録など）のほか日常的にケアの内容に関すること、事業所運営上の法解釈の解釈やそれが適正か否かなど常日頃から相談にのっていただいている。	市担当者及び包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、指導や助言等を得ながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者が自由な生活を営めるよう、十分に配慮してケアを行っている。入居者の安全確保と自由の確保をバランスよく提供できるよう日々ケア内容について検討している。ユニットから外部へ通じるドアにおよび玄関のカギは夜勤帯以外は開錠している。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を内部研修会開催や外部研修会参加等で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関わる研修に出席するほか、法人主催の学習会などで学習を深めている。虐待事例につながることはないよう、ケアの内容については日常的にスタッフ間で、確認し実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、社会福祉士の有資格者でもありこれまでの職歴等から権利擁護に関する理解をグループホームのさとの業務においても十分に持ち合わせている。今後も研修及び自己研さんに努め、それをスタッフに還元していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居時には、管理者と主任が必ず契約に立会っている。そこで、あるいはその前段のホームの見学時などを通して本人、家族の意向や心配点など確認し、不安な点については、詳しく説明するなど配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会のための来訪時に直接、面と向かって確認するほか、電子メールなどのツールを通じて、入居者の状況を家族に積極的に発信するほか、家族からの問い合わせなど双方向にやり取りが容易に出来る方法を取り入れている。	家族等の来訪時に苦情や要望等を言い表す機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう話し合う機会を設けている。また、苦情等を言い表せるように第三者機関への申し出先を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「スタッフ全体会議」のほか、平日頃からスタッフへの声掛けを実践、会議以外でも意見等を聞き取るように努めている。法人としても、各種伝達会議などで意見聴取している。	全体会議や個人面談の実施で職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見や提案等を運営に反映できるよう努めている。また、職員の離職率は低く、安定したケアサービスを実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホームにおいては、会議や普段の業務等を通じてスタッフの勤務状況を把握するように努めている。代表者は、適宜ホーム管理者、主任から情報収集を積極的に行い、スタッフの勤怠状況や心身の状況把握を実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修室が中心となって、各種研修に積極的に取り組んでいる。経験年数等のキャリアに基づきレベル毎の研修会などを毎年定期的に開催しているほか、外部の研修にも内容を勘案し該当するスタッフを積極的に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域の職能団体への参加機会を創出するほか、各種研修会や連絡会には参加するようはたらきかけている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、面談の機会を設けるなどスタッフと関係性を築き、困ったことや不安なこと表現しやすく配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、訪問やホームへお越しいただき出来るだけ詳細に心のうちを話していただけるように、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前訪問を通じ、本人・家族の希望、要望等を丁寧に伺って、入居後の関わり方、ケアが必要なを把握することに努めている。必要に応じて他サービスを提案、相談を実施。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	短時間でも入居者と関わり合いが持てるよう、コミュニケーションを密に信頼を得られるよう関係性を気づくことに努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族との時間が十分にとることができるよう意向を確認しながら対応。当方から、日ごろの状況を出来るだけ詳細に報告するほか、家族の意向も確認している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自室への持ち物は新しいものを購入するのではなく、愛着あるものを持参するように説明している。また、入居者の思い出の場所や馴染みの商店や美容室など交流が続くよう支援している。	菜園での野菜の栽培や収穫、町内会の夏祭り参加や焼き肉大会の実施、体験学習で来訪した中学生との交流などで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格を把握し、入居者同士の良好な関係作りにスタッフが調整役を果たすなどして利用者同士が楽しく交流出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転出される場合など、支援内容、本人の状況について詳細に報告を実施する他退院後訪問を行うなど関係を継続。家族からの相談にも乗っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの積極的に話を伺い、本人の思い、意向も十分に伺ってケアを提供している。また、本人家族からも頻りに意向確認しモニタリングのほか状況把握に努めている。	家族等との会話や一人ひとりの生活歴や暮らし方の希望を把握して、モニタリング等を通じて職員間で情報を共有し、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から些細なこと含めて情報を得るように努め、本人にとってこれまでの生活の延長線上の暮らしびりが続けられるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康管理を実践するなかで、ちょっとした変化にも気が付けるように、何気ない変化含めて把握することに努め、気になる場合一人の目でなく複数のスタッフの目で確認することに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、ユニット毎のケア会議や日々のスタッフ間の情報共有などを通じて情報を共有し、本人、家族からも意向、意見と伺って介護計画に反映させ支援している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の意見や要望、モニタリング等を通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には、都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来るだけ詳細に記載し体調や心理状態の把握やスタッフ間の情報共有に役立てている。また、気づいたことは都度話し合いなどによりよりよいケアの提供に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、ご家族と連絡・連携を密にしながらその時々希望やニーズに適切なケアを提供出来るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、地域の町内会長、圏域を担当する地域包括支援センター職員などに就いていただいている。今後は、近隣介護保険事業所との連携、交流などその方法を含めて“仕掛け”を検討模索している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまで診てもらっている主治医、病院等の治療が継続できるよう支援。受診後家族及びスタッフへの報告など医師の指示や処方内容について伝言。必要に応じて家族の同行を依頼している。	協力医療機関との連携や日常の健康管理、通院への支援等で適切な医療を受けられるようにしている。また、受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内看護師が定期的にホーム入居者の健康管理を行っているほか、必要時には夜間含めて対応できる体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ホームにおける様子、既往歴など本人情報を病院に提供し治療に活かせるよう支援している。定期的に見舞いや病棟との連絡を行い、病態把握を積極的に行い退院に向けての準備、支援など行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	受診など主治医から本人の身体状況を確認している。終末期近くなった場合には、ホームで出来る支援を十分に伝え、家族、医師との話し合いのもとホームで出来る支援を行う。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時、急変時すぐに対応できるよう、対応マニュアルを整備するほか日々「こんなときどうする」という意識づけを行い急な時にも落ち着いて対応出来るよう学習している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨今の異常気象に対応出来るよう、災害マニュアルを整備。「大丈夫だろう」から「かもしれない」という意識で、想定外の災害にも対応出来る危機管理能力を養っている。	自然災害(地震・津波等)を想定した災害マニュアルを準備している。また、年2回昼夜を想定した避難訓練を消防署や地域の協力を得ながら実施している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の声掛けなど「何気ない」対応にも、“だからこそ”の意識をもって対応出来るように留意している。理念に基づいたケアを実践し、人格を尊重した対応を行っている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように全体会議や内部研修会開催、日常業務を通じて職員間で周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「出来ることは自分で行っていただく」ことを基本に、身体的な「出来ること」はもとより、意思決定においても個々の入居者が意思決定できるように対応に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	出来る限り、入居者個々の希望や体調などに配慮し、本人のペースにそった支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者個々の頭髪、ひげ、爪の状態に気を配り、衣類や女性入居者の場合には化粧品の購入、洋服の購入などを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームでの楽しみが食事、というくらい生活に占めるウエートが高いことを理解し、個々の嗜好を勘案し、出来る範囲で希望を聞き取り、味はもちろん目でも楽しめるよう入居者と相談しながら工夫している。	食事のメニューは、管理栄養士が作成し、食事・水分摂取量、栄養バランスを把握している。また、焼肉や流しソーメン・スイカ割り大会など開催して、食事が楽しみなものになるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成、摂取カロリーや塩分について配慮している。1日の食事量、水分量を記録し、一人ひとりの状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア実施のほか、協力歯科医院との緊密な連携のもと、積極的な協力介入をいただき、訪問歯科診療を積極的に取り入れ口腔状態及び嚥下状態を把握している。毎週定期的に訪問を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄行為が自立している入居者には、出来るだけその状態が継続できるよう、支援が必要な方には本人の尊厳を尊重するなかで支援を行うよう十分に配慮した支援を行っている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、声かけや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動を勧めるほか、食物繊維の摂取を積極的に導入。排便状況によって、かかりつけ医へ報告・相談し処方内容を検討するほか、排便状況を確認し個々の状態にあった細かい対応。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	体調にあわせて入浴日・時間等を設定。保清のほか、気分転換、爽快感を得ただけのような支援している。入浴拒否の方には、手を変え品を変えての対応を実施。シャワー浴や足浴なども行っている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に合わせた入浴支援をしている。また、拒否の強い本人にも個々に沿った柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間まで思い思いゆったりと過ごしていただけるよう、照明や音響など環境にも配慮している。寝付けない方には、飲み物を勧めたり、出来る限り傾聴するなど行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況をファイル管理し、すぐに状況確認が出来るよう整備。また、複数の医院受診する方には、家族と相談し薬剤師訪問の利用を検討するなど飲み合わせや副作用にも配慮する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	例えば、食材に「もやし」があると“ひげとり”の上手な入居者に「活躍」いただいている。歌が好きな入居者には録画した歌番組を談話室のテレビで流すなど支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によって、近くの公園までの散歩など外出することで気分転換が図れるよう支援している。「スイーツが食べたい」と店舗へ同行したり、移動図書館で本を借りたいという希望にも同行するなど積極的に支援している。	町内会の夏祭りへの参加や焼き肉大会の開催、「ふるさと菜園」で野菜作りや収穫を楽しむなど戸外に出かけられるよう支援をしている。また、公園散策や買い物、流しソーメン大会の開催など一人ひとりのその日の希望に沿った支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には、高額にならない額を所持していただくが、基本的には本人とも十分に話をし納得・同意を得て、事務室金庫で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者のなかには、自己所有で携帯電話を使用している方がいる。使い方をおぼれた場合、早朝深夜など利用する時間帯など必要に応じて支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節に合わせて入居者またはスタッフが作成したオブジェを置くなど四季折々の季節感、行事を感じていただけるよう配慮している。トイレが清潔に利用できるように巡回回数などにも配慮している。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間は、清潔感が漂い、四季折々の飾りつけや行事参加の写真の掲示など生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間における家具の配置や入居者同士の関係性を配慮した居場所の確保などに努めている。他人数が居られる談話スペースのほか離れた場所にもソファを配置するなど工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでの生活で馴染みのものを持参いただき環境的に馴染みの空間を創出出来るよう家族と相談している。小物や絵画など、飾って「自分の空間」を作って居心地よい空間作りを支援している。	居室には、馴染みの小物や家具等が持ち込まれたり、好みの絵画等が飾られて本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	入居者の身体状況に合う環境作りをスタッフ一同で話し合い、危険な箇所を整備するなどして、入居者が安全に自立した生活を営めるよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600367		
法人名	社会福祉法人ふるさと		
事業所名	グループホームふるさと 2階ユニット		
所在地	帯広市西20条南3丁目6番22		
自己評価作成日	2017/9/30	評価結果市町村受理日	平成29年11月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=0194600367-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、閑静な住宅街のなかに立地し、近くには公園や小学校、高等学校などのほか、商業施設も近郊にあり生活環境に恵まれた地域にあると言える。
 入居者様の暮らしは、各々の方がここを文字通り「ふるさと」と感じていただけるよう、これまで生活されていた場の出来るだけ延長線上にありたいと、思っています。
 入居者様、それぞれの“歴史”を大切にし、ご自身の生活サイクル、趣味嗜好、あるいはこだわりなどにも出来るだけ応えながら、スタッフとともに生活を営んでいきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入り口に「理念」を掲げ、それに基づいたケアを全員が統一して実践出来るように図っている。入居者さんにとっての「第二のふるさと」となるべく努めている。名刺サイズに印刷してスタッフがそれぞれに所持している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ参加して、地域の方々とのつながりを持っている。ホームに隣接している住宅とは、平日頃の挨拶のほか、庭で咲いたお花をいただいたり、畑の収穫物をお裾分けするなど親しく交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症を理解していただくため、徘徊模擬訓練を地域包括支援センターと共催で取り組んだり、「認知症とは」と言った学習会の講師及び見学依頼を積極的に受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員会では、法人決算報告の他サービスの内容や行事の報告などを実施。文章による報告以外に、動画や写真等ビジュアルを使用した報告を行い、入居者の表情も視覚的にみていただけ好評を得ている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告（出席者、会議議事録など）のほか日常的にケアの内容に関すること、事業所運営上の法解釈の解釈やそれが適正か否かなど日頃から相談にのっていただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者が自由な生活を営めるよう、十分に配慮してケアを行っている。入居者の安全確保と自由の確保をバランスよく提供できるよう日々ケア内容について検討している。ユニットから外部へ通じるドアにおよび玄関のカギは夜勤帯以外は開錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関わる研修に出席するほか、法人主催の学習会などで学習を深めている。虐待事例につながることはないよう、ケアの内容については日常的にスタッフ間で、確認し実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、社会福祉士の有資格者でもありこれまでの職歴等から権利擁護に関する理解をグループホームのさとの業務においても十分に持ち合わせている。今後も研修及び自己研さんに努め、それをスタッフに還元していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居時には、管理者と主任が必ず契約に立会っている。そこで、あるいはその前段のホームの見学時などを通して本人、家族の意向や心配点など確認し、不安な点については、詳しく説明するなど配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会のための来訪時に直接、面と向かって確認するほか、電子メールなどのツールを通じて、入居者の状況を家族に積極的に発信するほか、家族からの問い合わせなど双方向に遣り取りが容易に出来る方法を取り入れている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「スタッフ全体会議」のほか、常日頃からスタッフへの声掛けを实践、会議以外でも意見等を聞き取るように努めている。法人としても、各種伝達会議などで意見聴取している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホームにおいては、会議や普段の業務等を通じてスタッフの勤務状況を把握するように努めている。代表者は、適宜ホーム管理者、主任から情報収集を積極的に行い、スタッフの勤怠状況や心身の状況把握を実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修室が中心となって、各種研修に積極的に取り組んでいる。経験年数等のキャリアに基づきレベル毎の研修会などを毎年定期的開催しているほか、外部の研修にも内容を勘案し該当するスタッフを積極的に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域の職能団体への参加機会を創出するほか、各種研修会や連絡会には参加するようはたらきかけている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、面談の機会を設けるなどスタッフと関係性を築き、困ったことや不安なこと表現しやすく配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、訪問やホームへお越しいただき出来るだけ詳細に心のうちを話していただけるように、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前訪問を通じ、本人・家族の希望、要望等を丁寧に伺って、入居後の関わり方、ケアが必要かを把握することに努めている。必要に応じて他サービスを提案、相談を実施。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	短時間でも入居者と関わり合いが持てるよう、コミュニケーションを密に信頼を得られるよう関係性を気づくことに努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族との時間が十分にとることができるよう意向を確認しながら対応。当方から、日ごろの状況を出来るだけ詳細に報告するほか、家族の意向も確認している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自室への持ち物は、愛着あるものを持参していただき、慣れ親しんだ環境を継続していただく。家族の写真を壁一面に掲示するなど馴染みの人の関係が途切れないよう工夫している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性などを考慮して、談話室における居場所を決めている。孤立することなく、声かけやゲームへの参加を誘導している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転出される場合など、支援内容、本人の状況について詳細に報告を実施する他退院後訪問を行うなど関係を継続。家族からの相談にも乗っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの積極的に話を伺い、本人の思い、意向も十分に伺ってケアを提供している。また、本人家族からも頻りに意向確認しモニタリングのほか状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から些細なこと含めて情報を得るように努め、本人にとってこれまでの生活の延長線上の暮らしが続けられるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康管理を実践するなかで、ちょっとした変化にも気が付けるように、何気ない変化を含めて把握することに努め、気になる場合一人の目でなく複数のスタッフの目で確認することに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、ユニット毎のケア会議や日々のスタッフ間の情報共有などを通じて情報を共有し、本人、家族からも意向、意見と伺って介護計画に反映させ支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来るだけ詳細に記載し体調や心理状態の把握やスタッフ間の情報共有に役立てている。また、気づいたことは都度話し合いなどによりよりよいケアの提供に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、ご家族と連絡・連携を密にしながらその時々希望やニーズに適切なケアを提供出来るようにしている。法人内他事業所での行事などへも参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、地域の町内会長、圏域を担当する地域包括支援センター職員などに就いていただいている。今後は、近隣介護保険事業所との連携、交流などその方法を含めて“仕掛け”を検討模索している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまで診てもらっている主治医、病院等の治療が継続できるよう支援。受診後家族及びスタッフへの報告など医師の指示や処方内容について伝言。必要に応じて家族の同行を依頼している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内看護師が定期的にホーム入居者の健康管理を行っているほか、必要時には夜間含めて対応できる体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ホームにおける生活の様子、既往歴など本人情報を病院に提供し治療に活かせるよう支援している。定期的に見舞いや病棟との連絡を行い、病態把握を積極的に行い退院に向けての準備、支援など行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	受診など主治医から本人の身体状況を確認している。終末期近くなった場合には、ホームで出来る支援を十分に伝え、家族、医師との話し合いのもとホームで出来る支援を行う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時、急変時すぐに対応できるよう、対応マニュアルを整備するほか日々「こんなときどうする」という意識づけを行い急な時にも落ち着いて対応出来るよう学習している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨今の異常気象に対応出来るよう、災害マニュアルを整備。「大丈夫だろう」から「かもしれない」という意識で、想定外の災害にも対応出来る危機管理能力を養っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の声掛けなど「何気ない」対応にも、“だからこそ”の意識をもって対応出来るように留意している。理念に基づいたケアを実践し、人格を尊重した対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「出来ることは自分で行っていただく」ことを基本に、身体的な「出来ること」はもとより、意思決定においても個々の入居者が意思決定できるように対応に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	出来る限り、入居者個々の希望や体調などに配慮し、本人のペースにそった支援を行っている。夜間早朝、ニュースや天気予報を観たいという希望者にも周囲に配慮したうえで観て頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者個々の頭髪、ひげ、爪の状態に気を配り、衣類や女性入居者の場合には化粧品の購入、洋服の購入などを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各自の嗜好のほか季節にあわせての行事食、流しラーメン、すいか割などを計画し、実施している。偶然、苺ものが苦手な方が多く献立も工夫して調理している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成、摂取カロリーや塩分について配慮している。1日の食事量、水分量を記録し、一人ひとりの状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア実施のほか、協力歯科医院との緊密な連携のもと、積極的な協力介入をいただき、訪問歯科診療を積極的に取り入れ口腔状態及び嚥下状態を把握している。毎週定期的に訪問を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄行為が自立している入居者には、出来るだけその状態が継続できるよう、支援が必要な方には本人の尊厳を尊重するなかで支援を行うよう十分に配慮した支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適当な運動を勧めるほか、食物繊維の摂取を積極的に導入。排便状況によって、かかりつけ医へ報告・相談し処方内容を検討するほか、排便状況を確認し個々の状態にあった細かい対応。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	体調にあわせて入浴日・時間等を設定。保清のほか、気分転換、爽快感を得ていただけるよう支援している。入浴拒否の方には、手を変え品を変えての対応を実施。シャワー浴や足浴なども行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間まで思い思いゆったりと過ごしていただけるよう、照明や音響など環境にも配慮している。寝付けない方には、飲み物を勧めたり、出来る限り傾聴するなど行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況をファイル管理し、すぐに状況確認が出来るよう整備。また、複数の医院受診する方には、家族と相談し薬剤師訪問の利用を検討するなど飲み合わせや副作用にも配慮する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の取り込みなどは入居者が自ら手伝ってくれる。今後も役割を果たしてもらい張り合いある時間を過ごせるよう支援していく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公園までの散歩のほか、畑作業を得意とする方が多く、畑の土起こしから収穫までを、入居者中心になって計画し、実施していた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のほか、通帳管理も自分で行っている入居者からの強い希望で自分の居る場所で通帳も置いておきたい、とのこと。家族とも相談し特例として預かって対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在の入居者には携帯電話を所持している方は居ないが、希望があれば事務室の電話を利用させていただく。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節に合わせて入居者またはスタッフが作成したオブジェを置くなど四季折々の季節感、行事を感じていただけるよう配慮している。トイレが清潔に利用できるように巡回回数などにも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間における家具の配置や入居者同士の関係性を配慮した居場所の確保などに努めている。他人数が居られる談話スペースのほか離れた場所にもソファを配置するなど工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでの生活で馴染みのものを持参いただき環境的に馴染みの空間を創出出来るよう家族と相談している。小物や絵画など、飾って「自分の空間」を作って居心地よい空間作りを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の妨げにならないよう、障害物を考慮した家具の配置を心がけて、その方が自由に安全に移動できるよう支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームふるさと

作成日：平成 29年 11月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	12	スタッフの年齢構成が高齢化している。数年後を見越して若いスタッフを補充が必要である。	法人として、新規採用を積極的に行い若いスタッフの採用を行う。	法人全体の取り組みとして、採用計画や法人全体の人事計画を立案するほか、ホームとしても積極的に地域の方へ働きかけるほか、中学生の職場体験なども速効性がないが将来への投資として継続して受け入れていく。	6ヶ月から1年
2	49	季節毎の行事や誕生会など企画して行っているが、ホーム全体としての行事が開催出来ていない。また、入居者の好みの場所に外出していることが少なく、出来たとしても対象者が固定してしまう。	多くの入居者が希望する「行きたい場所」へ外出することが出来る。	入居者個々の好みの場所、思い出の場所などの把握に努め、希望や訴えがあったときには、同行スタッフの配置、車輛の確保など可能な限りで対応し外出支援を行う。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。